

# 令和2年産水稻の作柄概況

令和2年12月14日  
神奈川県農業技術センター普及指導部

## 1 育苗期

- ・育苗期の気温は平年並～やや高く、日照時間は平年並みに推移した。苗の生育は概ね順調であった。

## 2 生育初期（田植期～分けつ期前半）

- ・田植時期は、概ね平年並みであった。
- ・苗の活着は良好で、草丈はやや長かったが、茎数は平年並み～やや少なかった。

## 3 生育中期（分けつ期後半～出穂期前）

- ・分けつ期後半は、草丈は平年並み～やや長く、茎数は平年並み～やや少なく、葉色は平年よりやや濃く推移した。

## 4 出穂期

- ・5月中旬の出穂期はやや遅かった。
- ・6月上旬植えから6月中旬植えの出穂期は平年並みであった。

## 5 成熟期

- ・5月中旬から6月上旬植えの成熟期は平年並み～やや早く、登熟日数は平年並み～やや短かった。
- ・6月中旬植えの成熟期は平年並み～早く、登熟日数はやや短かった。
- ・出穂期以降は高温が続き登熟が進んだ。
- ・稈長は短い～平年並み、穂長はやや短い～平年並み、穂数は少ない～多かった。地域によりバラツキがみられた。

## 6 玄米品質

- ・出穂期以降の気温は平年より高く推移したため、白未熟粒や着色粒が発生した。
- ・刈り遅れによる着色粒がみられた。

## 7 病害虫の発生

- ・スクミリンゴガイ（通称：ジャンボタニシ）の発生が拡大し、一部のほ場では水稻の生育に影響を及ぼすような被害がみられた。
- ・トビイロウンカが発生し、収穫時期が遅い地域では坪枯れ症状がみられた。
- ・紋枯病が発生し、一部のほ場では倒伏した。
- ・一部地域では斑点米カメムシ類の被害が発生した。
- ・内穎褐変病等による粃の褐変が発生した。



図1 坪枯れ症状

## ○スクミリングガイの対策

スクミリングガイの発生地域が拡大しています。越冬する貝の多くは1 cm 以下なので見つけにくいです。水田や用排水路などにスクミリングガイの卵塊(図2)を見かけた地域では必ず次の対策を行きましょう。

- ・越冬場所となる用排水路や柵(ます)の泥上げを行い、越冬している貝を破砕し、越冬密度を低下させます。
- ・寒期にロータリー耕を行い、貝を掘り起こして寒気にさらすとともに破砕します。作業速度を遅くしロータリーの回転数を高く、浅めに耕うんすると、効果が高まります。発生密度が高い水田では複数回行います。貝が多い水口、水尻、水が溜まりやすい畦畔は、ロータリーが届かないので、鍬等を使い、貝を破砕しましょう。



図2 スクミリングガイの卵塊

## 8 作柄概況

### (1) 品種及び移植時期ごとの生育状況(平年値比較<sup>注1)</sup>)

品種名	移植時期	稈長	穂長	穂数
はるみ	6月上旬	やや短い	やや短い	多い
	6月中旬 <sup>注2)</sup>	同等	同等	やや多い
キヌヒカリ	6月上旬	短い	やや短い	多い
	6月中旬	やや短い	同等	少ない
さとじまん	6月上旬	同等	やや短い	やや多い
	6月中旬	同等	同等	同等

注1) 普及診断ほ及び研究部データ過去10年(2010～2019年)平均との対比

注2) 過去8年(2010～2012年、2015～2019年)平均との対比

### (2) 品種及び移植時期ごとの収量性(平年値比較<sup>注1)</sup>)

品種名	移植時期	玄米重	千粒重
はるみ	6月上旬	同等	同等
	6月中旬 <sup>注2)</sup>	重い	同等
キヌヒカリ	6月上旬	同等	やや軽い
	6月中旬	やや重い	同等
さとじまん	6月上旬	同等	同等
	6月中旬	やや軽い	同等

注1) 普及診断ほ及び研究部データ過去10年(2010～2019年)平均との対比

注2) 過去8年(2010～2012年、2015～2019年)平均との対比

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課

平塚市上吉沢1617

TEL : 0463-58-0333 内線 382～384

FAX : 0463-58-4254